

# 「大牟田市文化芸術振興プラン(第3期)」策定に係る各種調査から 見えてきた主な特徴と今後の方向性について

## 調査の趣旨及び概要について

### 1. 調査の趣旨

大牟田市文化芸術振興プラン(第3期)を策定するにあたり、本市の文化芸術に関する市民の意識や子どもの文化芸術を推進する上での関係者の意見、さらには文化芸術活動を行っている関係団体の意見などを把握し、プランの施策を導く出すための参考にするものです。

### 2. 調査の概要

#### (1) 市民意識調査

##### ① 調査の対象と抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出した 18 歳以上の市民 1,000 人

##### ② 調査方法

郵送法(郵送による配布・回収) 任意の時点で礼状兼協力依頼状を送付

##### ③ 調査期間

令和4年9月30日～10月21日

##### ④ 回収状況

配布数 1,000 票 有効回収数 437 票 有効回答率 43.7%

#### (2) 若者意識アンケート調査

##### ① 調査対象者

大牟田市市民活動等多目的交流施設「えるる」で学習活動を行っている 16 歳から 34 歳までの市民

##### ② 調査方法

アンケートの配付と回収または Logo フォームによる回答

##### ③ 調査期間

令和5年5月17日～5月31日

##### ④ 回答状況

回答者数 84 人(アンケートによる回答 76 人 Logo フォームによる回答 8 人)

### (3)子どもの文化芸術に関するアンケート調査

#### ①調査対象者

大牟田市立小・中・特別支援学校校長ならびに大牟田市立羽山台小学校・吉野小学校・大牟田中央小学校・玉川小学校に在籍している小学校5年生の保護者

#### ②調査方法

アンケートの配付と回収

#### ③調査期間

令和5年5月1日～5月19日

#### ④回収状況

大牟田市立小・中・特別支援学校校長 28校 有効回答率 100.0%

大牟田市立羽山台小学校・吉野小学校・大牟田中央小学校・玉川小学校に在籍している小学校5年生の保護者 145人 有効回答率 81.0%

### (4)文化芸術活動団体アンケート調査

#### ①調査の対象と抽出方法

大牟田市民文化のつどいに参加している文化芸術団体ならびに地区公民館定期登録サークルで文化芸術活動を行っているサークル

#### ②調査方法

アンケートの配付と回収

#### ③調査期間

大牟田市民文化のつどいに参加している文化芸術団体

令和4年12月20日～令和5年1月31日

地区公民館定期登録サークルで文化芸術活動を行っているサークル

令和5年5月11日～5月25日

#### ④回答状況

大牟田市民文化のつどいに参加している文化芸術団体 20団体

17団体 有効回答率 85.0%

地区公民館定期登録サークルで文化芸術活動を行っているサークル 87団体

76団体 有効回答率 87.4%

## 調査から見えてきた主な特徴

### ■市民意識調査

#### 1. 文化芸術の鑑賞について

##### (1) 市民は新型コロナウイルス感染症などの影響により直接鑑賞する機会が少なくなった

市民意識調査では、この1年間にホール、劇場、映画館や美術館などで、文化芸術活動を直接鑑賞した市民は、47.8%と半数を割る結果となりました。また、本市が毎年度実施しています「まちづくり市民アンケート」においても、この1年間にホール、劇場、映画館や美術館などで、文化芸術活動を直接鑑賞した市民は、R3～R4年度調査においても50%を下回る結果となり(R3:44.5%、R4:38.2%)、特に、R4年度調査(R3年度に直接鑑賞を行った市民の割合)は、4割に満たない結果となりました。

一方、R2年度以前については、半数以上の市民が直接鑑賞している結果となっていることや、直接鑑賞しなかった要因として新型コロナウイルス感染症による影響により鑑賞の機会がなくなったことが最も多かったことから、文化芸術活動を直接鑑賞する市民が大きく制限を受けたことが推察されます。

##### (2) 市民は興味を持てるアーティストや作品に触れる機会を求めている

市民意識調査では、文化芸術鑑賞に関心を持つようになると思う項目として、「興味を持てるアーティストや作品に出会う」が54.0%と最も高い値となりました。

以上のことから、市民ニーズの把握はもとより、文化芸術に関する情報などを的確に把握し、市民が興味を示すような文化芸術を提供することが重要であることが推察されます。

#### 2. 文化芸術の参加について

##### (1) 市民は新型コロナウイルス感染症などの影響により文化芸術活動を行う機会が少なくなった

市民意識調査では、この1年間に鑑賞ではなく、自ら文化芸術活動の実践(創作や出演、習い事、祭りや体験活動への参加など)をしなかった市民は、2割程度となり、文化芸術活動を行っている市民の割合が低い状況であることが判明しました。

低くなった要因としてはさまざまなことが想定されますが、新型コロナウイルス感染症の影響で鑑賞する機会が少なかったことが判明したことから、実践する側も機会が少なかったこと、さらには子どもにおいても学校以外の芸術活動の実践が少なかったことから、全世代に亘って文化芸術活動の機会が制限されたことが推察されます。

## **(2)市民は魅力ある内容の活動への参加を求めている**

市民意識調査では、文化芸術活動に参加しやすくなると思う項目として、「魅力ある内容の活動が行われる」が最も高い値となりました。

以上のことから、市民ニーズの把握はもとより、文化芸術に関する情報などを的確に把握し、市民が興味を示し参加へと繋がるような文化芸術活動を提供することが重要であることが推察されます。

## **3.文化芸術に関する情報について**

### **(1)文化芸術に関する情報が十分に届いていない(発信されなかった)**

市民意識調査によると、文化芸術に関する情報を得ていると感じている市民は29.7%と、前回調査の41.5%を大きく下回りました。一方、情報を得られていないと感じている市民は、51.7%と前回調査の34.3%よりも17.4ポイント高い結果となりました。また無回答の割合が24.2%から2.5%と大きく減少する結果となりました。

文化芸術に関する情報が十分に届いていないと感じている理由については、アンケートでは調査していないため明確な根拠は断定できませんが、新型コロナウイルス感染症の影響により文化芸術活動が実施されなかったことなどにより、情報そのものが発信されなかったことも影響しているものと推察されます。

また、前回調査より無回答が大きく減少したことについても、文化芸術に関する情報が発信されていなかったことによって、情報を得ていないという明確な回答ができたため減少したということも推察されます。

### **(2)文化芸術に関する情報は、市の広報誌からの情報を入手する市民は多いものの、紙媒体以外からの情報を得ている市民が増加傾向となっている**

市民意識調査では、文化芸術に関する情報について、市の広報誌からの情報を得ている市民が多いことが改めて判明しました。

一方、前回調査との比較では、市の広報誌を選択している市民の割合は多いものの、インターネット、口コミ、テレビ・ラジオ、SNS、ホームページのいわゆる紙媒体以外の方法により情報を得ている市民が増加傾向となったことが判明しました。また、年齢階層別では、各年齢層で最も情報を得ている方法が異なる傾向となっていることから(SNSは29歳以下、インターネットは49歳以下、広報誌は40歳以上など)、文化芸術に関する情報は、アナログとデジタル双方の組み合わせにより、かつターゲットとなる年齢階層に併せた情報を発信することが効果的であることが推察されます。

## 4. 公共施設等の利用について

### (1) 市民は文化芸術活動の頻度などに応じた公共施設等の利用を行っている

市民意識調査では、文化芸術活動に利用した公共施設の利用頻度として、文化会館などの文化施設や地区公民館などの社会教育施設を中心に利用されていることが判明しました。

また、利用頻度別に見ると年に1回程度の利用が最も多いものの、週に1回程度においては、地区公民館が高齢者を中心に比較的多く利用されるなど、文化芸術活動の頻度に応じた公共施設等の利用が行われていることが判明しました。

### (2) 文化施設での音楽公演を求めている市民が多い。関心がない、活動を行っていない市民については、求めているイベントが特定されていない。

市民意識調査では、音楽公演(オペラ・オーケストラ・合唱・吹奏楽・ロック・ポップスなど)を求める市民が多い結果となりました。

一方、全ての年代で音楽公演を求める市民が最も多いものの、年齢階層別に見てみると、30歳代や70歳以上の市民については、他の年齢階層と比較した際には多くなく、「わからない」と回答した市民が比較的多い結果となりました。

30歳代については、「この1年間に直接鑑賞しなかった理由」について、「関心がないから」が最も多く、文化芸術活動そのものも他の年齢階層と比較した場合には、行っていない割合が高い結果となりました。

以上のことから、関心がない、活動を行っていない市民については、求めているイベントについては特定されていないということが推察されます。

## 5. 本市の今後の文化振興について

### (1) 市民は気軽に親しむことができる身近で質の高い文化芸術の提供を求めている。

また、30歳代については、子どもや若者の文化芸術への関心を高めることを求めている。

市民意識調査では、市民が気軽に文化芸術に親しむことができる身近な催しを充実させることや、コンサートや舞台、美術などで質の高い文化芸術の鑑賞の機会を充実させることを求める市民が多い結果となりました。

一方、年齢階層別に見てみると、30歳代については、子どもや若者の文化芸術への関心を高める事業の充実を求める市民が多い結果となりました。

以上のことから、子どもや若者の文化芸術への関心を高める事業を充実させることによって、関心力や活動力を高めることが期待できるものと推察されます。

### (2) 市民は鑑賞型の文化芸術イベントを強く求めている。

市民意識調査では、市民が今後、望む文化芸術のイベントについては、鑑賞型の文化芸術のイベントが多い結果となりました。

一方、年齢階層別に見てみると、40歳代以下を中心にオンライン(インターネット)を活用したイベントを求めているなどイベントの形態も多様化していることも推察されます。

### **(3)子どもの文化芸術活動が充実していると思う市民は少ない。**

市民意識調査では、子どもの文化芸術活動が充実していると思う市民は、10.9%で前回調査の結果(17.7%)よりも低い結果となりました。

一方、思わない市民は、35.0%で前回調査の結果(27.6%)よりも高い結果となりました。また、「わからない」と回答した市民は50.3%と半数を超えるとともに、前回調査の結果(39.1%)よりも高い結果となりました。「わからない」と回答した市民が増加した要因の明確な根拠は分かりませんが、新型コロナウイルス感染症の影響により子どもの文化芸術活動が実施されなかったことなどにより、情報そのものが発信されなかったことも影響しているものと推察されます。

### **(4)市民は子どもが文化芸術に親しむために、学校での鑑賞の機会や体験活動などの文化芸術活動を強く望んでいる。**

市民意識調査では、子どもが文化芸術に親しむためには、学校での音楽や演劇、美術などの鑑賞の機会や、文化会館などでの体験、親子体験などを望んでいる市民が多いことが判明し、特に20歳代、40歳～50歳代につきましては、学校での鑑賞の機会や体験活動を強く望む結果となりました。

また、子どもの文化芸術体験について、何が重要かの質問においても学校における公演や展示、鑑賞体験、さらには音楽やダンスなどの実演体験などが重要であると回答した市民も多かったことから、市民は学校での文化芸術活動を強く望んでいることが推察されます。

## **6.文化芸術活動の盛んなまちにするためのアイデアなど[自由記述欄]**

### **(1)市民は文化芸術に触れる(参加する・鑑賞する・体験する)機会を望んでいる。**

市民意識調査の自由記述欄では、文化芸術活動への参加や体験、文化芸術作品等の鑑賞など、文化芸術に触れる機会を望む意見が多く寄せられました。中でも子ども世代が文化芸術に触れることが重要である旨の意見が多くあるとともに、学校教育の中での文化芸術に触れる機会を設けることを望む意見が多くありました。さらに、子どもの文化芸術体験については、親子参加型の体験を希望する市民が多いことも判明しました。

以上のことから、市民は文化芸術に触れる機会を望んでいるとともに、子ども世代から文化芸術に触れる機会を設けることが重要であることを感じている市民が多いことが推察されます。

### **(2)市民は文化芸術に触れるための条件や環境の整備などを望んでいる。**

市民意識調査の自由記述欄では、文化芸術に触れるための気軽に鑑賞や体験ができる機会や地区公民館などの身近な施設での機会の創出、駐車場の整備や子どもが文化芸術に触れることができるためのスペースの確保などを望む意見が多く寄せられました。また、文化芸術に触れるため

の助成制度(無料や割引制度)などを望む意見も多く寄せられました。さらには、コンサートも聴覚障害を持つ方々にも鑑賞ができるような聴覚支援システムの導入など、文化芸術に触れるための合理的配慮を求める意見も寄せられました。

以上のことから、市民は気軽に文化芸術に触れる機会を得るための条件や環境の整備、社会的包摂に向けた対応などを望んでいることが推察されます。

### **(3)市民は文化芸術に関する分かりやすい情報発信を望んでいる。**

市民意識調査の自由記述欄では、文化芸術や文化会館などに関する情報について、十分に届いていないと感じている意見が多く寄せられました。また、情報発信の手法の工夫(ポスターやチラシ、ホームページの改善や充実、メディアの活用など)を望む意見も多く寄せられました。

文化芸術に関する情報については、市や文化施設、各種団体等においてもさまざまな手法を用いて情報発信しているところですが、その情報が十分に届いていないとともに、分かりやすい情報発信などの工夫が必要であることが推察されます。

### **(4)さまざまな分野の文化芸術に対するイベントやアイデアの提案が寄せられ、文化芸術のイベントに対する高い関心や要望がある。**

今回の市民意識調査アンケートでは、自由記述欄を通じて音楽・美術・演劇等のさまざまな分野のイベントやアイデアの提案が多く寄せられました(約60件)。

以上のことから、市民意識調査に回答した市民は、文化芸術のイベントやアイデアに対して高い関心や要望があることが推察されます。

## **■若者意識アンケート調査**

### **1.興味ある文化芸術の分野や関心を持つための取組みについて**

#### **(1)若者は文化芸術への興味はあるものの、直接鑑賞の増加には繋がっていない**

若者意識調査では、どのような芸術分野に興味があるかの質問において、音楽(52.4%)、映画(44.0%)、美術(絵画、書、写真など:26.2%)が比較的高い結果となりました。また、どれにも興味がないと回答した若者は1.2%と低い結果となりました。

一方、1年間でどのような催しに参加・直接鑑賞したかの質問には、映画(31.0%)や音楽(28.6%)は比較的高かったものの、どれにも参加していない割合は、27.4%と回答割合の中では比較的高い割合となりました。

以上のことから、若者は文化芸術に関心はあるものの、直接鑑賞などの具体的な行動までには大きく繋がっていないことが推察されます。

#### **(2)若者は時間的余裕や近くで魅力的な催し物がないことなどから参加していない**

若者意識調査では、文化芸術活動に参加しない、または参加しにくい理由として、「忙しくて時間的な余裕がない(35.7%)」や「近くで文化芸術の催しが開催されない(29.8%)」、「参加・鑑賞したいと思う魅力的な催し物がない(27.4%)」が主な理由として挙げられました。

以上のことから、若者は、時間的な余裕がないことや近くで魅力的な催し物がないことなどから、文化芸術活動に参加していないことが推察されます。

## 2. 文化芸術に関する情報や文化芸術に関心を持つための方策について

### (1) 若者の文化芸術に関する情報は紙媒体以外からの入手が多い

若者意識調査では、情報の入手方法としては、インターネット(40.5%)、SNS(36.9%)、テレビ・ラジオ(22.6%)が高い割合となり、紙媒体以外からの情報を得ていることが判明しました。

### (2) 若者は学校における体験する機会の充実や子どもの頃から親しむ機会があることなどを望んでいる

若者意識調査では、若い世代が文化芸術に関心を持つための方策について、「学校の部活動など、体験する機会が充実している(40.5%)」や「子どもの頃から文化芸術に親しむ機会がある(32.1%)」、「若者の興味に合わせた催し物を増やす(32.1%)」が高い割合となり、学校における体験する機会の充実や子どもの頃から親しむ機会、さらには、若者の興味に併せた催し物が行われることを望んでいることが判明しました。

## ■子どもの文化芸術に関するアンケート調査

### 1. 子どもが文化芸術に触れる(鑑賞や体験・経験)ことについて

#### (1) 子どもが文化芸術に触れることは重要と感じている

子どもが文化芸術に触れることが重要と回答した学校は100.0%(思う:89.3%、どちらかといえば思う:10.7%)となりました。また、保護者についても、96.6%(思う:56.6%、どちらかといえば思う:40.0%)と9割を超える回答となりました。

以上のことから、学校や保護者は子どもが文化芸術に触れることは重要と感じていることが推察されます。

#### (2) 子どもが文化芸術に触れる機会を与えたいと感じている

子どもが文化芸術に触れる機会を与えたいと回答した学校は100.0%(思う:78.6%、どちらかといえば思う:21.4%)となりました。また、保護者についても、97.3%(思う:56.6%、どちらかといえば思う:40.0%)と9割を超える回答となりました。

以上のことから、学校や保護者は子どもが文化芸術に触れる機会を与えたいと感じていることが推察されます。

#### (3) 子どもが文化芸術に触れる機会は充実していないと感じている

子どもが文化芸術を実際に鑑賞したり体験する機会は、充実していないと回答した学校は64.2%(思わない:7.1%、どちらかといえば思わない:57.1%)となりました。また、子どもがこの1年間



で学校での経験を除き、実際に文化芸術を経験する機会がなかったと回答した保護者は、57.2%と、機会があった保護者の32.4%を上回る結果となりました。

以上のことから、子どもが文化芸術に触れる機会が充実していないことが推察されます。

#### **(4)子どもが文化芸術に触れる機会を提供するための課題として、時間的・金銭的・環境的な要因が重なっている**

学校では、子どもが文化芸術に触れる機会を提供するための課題としてとして、授業単位の時間がない(67.9%)や費用面の課題(64.3%)、さらには会場までの送迎(50.0%)が主な課題として挙げられました。

一方、保護者からは、保護者が忙しくて時間がない(43.4%)や文化芸術活動に関する情報がわからない(40.7%)、金銭面の課題(35.2%)が主な理由として挙げられました。また、子どもの関心がない(31.7%)といった理由も挙げられました。

以上のように、子どもが文化芸術に触れる機会を提供するための課題は、時間的・金銭的・環境的・情動的な要因が重なっていることが推察できます。

## **2.本市における子どもの文化芸術活動について**

### **(1)保護者は本市における子どもの文化芸術活動が充実していないと感じている**

本市における子どもの文化芸術活動について、充実していると回答した保護者は19.3%(思う:4.8%、どちらかといえば思う:14.5%)に留まり、充実していないと回答した保護者は42.8%(思わない:15.2%、どちらかといえば思わない:27.6%)と上回る結果となりました。

以上のことから、保護者は本市における子どもの文化芸術活動が充実していないと感じていることが推察されます。

一方、「わからない」と回答した保護者は37.2%と最も高くなりました。「わからない」が最も高くなった明確な根拠は分かりませんが、新型コロナウイルス感染症の影響により子どもの文化芸術活動が実施されなかったことなどにより、情報そのものが発信されなかったことも影響しているものと推察されます。

### **(2)子どもが一層、文化芸術に親しむためには学校での鑑賞や体験の機会を充実させるとともに、そのための支援策も必要**

子どもが一層、文化芸術に親しむための充実策として、学校では、「学校での音楽や演劇、美術などの文化芸術の鑑賞や体験の機会(71.4%)」が最も高く、次に「質の高い文化芸術にふれる機会(42.9%)」、「親子で文化芸術を楽しめる鑑賞、体験の機会(28.6%)」と続けました。

また、保護者についても「学校での音楽や演劇、美術などの文化芸術の鑑賞や体験の機会(73.8%)」が最も高く、次に「文化施設などにおける子ども向けの鑑賞や体験の機会(29.0%)」、「地域の祭りや伝統芸能など郷土の文化の学習、体験、発表の機会」と「親子で文化芸術を楽しめる鑑賞、体験の機会」が共に25.5%と続けました。

以上のことから、子どもの文化芸術活動を充実させるためには学校での鑑賞や体験の機会を充実させることが重要であることが判明しました。

一方、学校が回答した学校での文化芸術活動を充実させるための支援策としては、「費用面の支援」、「文化芸術団体やアーティストの紹介や調整」、「文化芸術事業に係る助成申請の手続き」などが高い割合となり、文化芸術活動を実施する上での財政的な支援や企画、連絡調整などの支援が必要であることも判明しました。

## ■文化芸術活動アンケート調査

### 1. 文化芸術団体の活動や組織面の課題について

#### (1) 文化芸術活動者の高齢化、文化芸術団体の担い手不足が課題

文化芸術活動団体のうち、大牟田市民文化のつどいの参加団体に対するアンケートによると、組織や活動について困っていることとして、会員不足(82.4%)と会員の高齢化(76.5%)、後継者がいない(47.1%)、活動資金(41.2%)が比較的高い割合となりました。また、地区公民館の定期登録サークルについては、会員の高齢化(75.0%)が特に高く、会員不足(56.6%)、後継者がいない(19.7%)と続く結果となりました。

両分野の団体共に会員の高齢化と会員不足、後継者不足が活動や組織面の課題として感じていることが推察されます。

#### (2) 活動資金の課題は一定の費用を投じて活動している団体に多く見られる

イベント等での発表を行うに当たり心配なこととして、活動資金を挙げたのは大牟田市民文化のつどいの参加団体については、41.2%となりましたが、公民館の定期登録サークルについては、2.6%と比較的低い結果となりました。

大牟田市民文化のつどいの参加団体については、そのほとんどが大牟田文化連合会に加盟している文化芸術団体で、大牟田文化会館などの文化施設において一定の費用(会場使用料・附属設備・演出や設置に係る費用・指導者謝礼など)を投じて活動を行っていることから、会員数の不足が運営面における資金の捻出にも影響していることが推察されます。

### 2. 子どもや若者の参加・育成につながる取組みについて

#### (1) 子どもや若者の参加・育成につながる取組みを実践している、または望んでいる文化芸術団体が多い

大牟田市民文化のつどいの参加団体では、大牟田市民文化のつどいにおいて子どもや若者の参加・育成につながる取組みを行っている割合が58.8%、(行いたいものの)できなかった割合は29.4%と、9割近い団体が実践または実践を望んでいることが判明しました。

また、公民館の定期登録サークルについても、子どもや若者の参加・育成につながる取組みを

行っている割合が 39.5%、(行いたいものの)できなかった割合は 14.5%と、半数以上の団体が実践または実践を望んでいることが判明しました。

子どもや若者の参加・育成につながる取組みを実践している、または望んでいる文化芸術団体が多い要因としては、さまざまなことが想定されますが、文化芸術団体が持つ技術、文化芸術が持つ魅力を子どもや若者に継承したいこと、さらには、子どもや若者と関わることによって期待される各団体の活動の活性化へと繋がることなどが推察されます。

## **(2)活動や組織形態などによって子どもや若者の参加・育成への取組みや意識が異なっている**

大牟田市民文化のつどいの参加団体では、約9割の団体が子どもや若者の参加・育成につながる取組みを実践または実践を望んでいることが判明しました。

一方、公民館の定期登録サークルについては、半数以上の団体が実践または実践を望んでいるものの、行っていない団体も 46.1%と最も高い割合となりました。

大牟田市民文化のつどいの参加団体と公民館の定期登録サークルとでは、活動や組織の形態、さらには活動の範囲なども異なっていることから、文化芸術活動に係る子どもや若者の参加・育成への取組みや意識が異なっていることが推察されます。

## **3. 発表の機会における課題について**

### **(1)活動や組織形態などによって発表の機会における課題の大きさや内容が異なっている**

大牟田市民文化のつどいの参加団体では、発表会の開催にあたり心配と感じている内容については、運営面での人手不足の心配や資金面の心配の割合がそれぞれ 41.2%と最も高い割合となりました。一方、公民館の定期登録サークルについては、「わからない」が最も高く(67.1%)、次いで運営面での人手不足(19.7%)となりました。

大牟田市民文化のつどいの参加団体と公民館の定期登録サークルとでは、活動や組織の形態、さらには活動の範囲なども異なっていることから、発表の機会における課題についても異なっていることが判明しました。要因については、さまざまなことが想定されますが、大牟田市民文化のつどいの参加団体については、自ら会場を確保し発表の機会のための諸準備、費用の捻出などを自ら行っていることに対し、公民館定期登録サークルはについて、その発表の場の中心が地区公民館の文化祭や生涯学習ボランティア登録制度(愛称:まなばんかん)によるボランティア派遣など、発表の場や機会が一定確保された中での対応であることから、両分野の団体が抱える課題の大きさや意識に差異が生じたものと推察されます。

### **(2)発表の機会を自ら企画している文化芸術団体は、イベントの告知や発表に係る人的支援を求めている**

大牟田市民文化のつどいの参加団体が抱える発表における課題解決のために最も必要と感じて

いるサポートでは、イベントの告知が41.2%と最も高く、次に運営などの長期的支援(29.4%)、受付などの短期的支援(29.4%)、となりました。一方、公民館の定期登録サークルについては、無回答が68.4%と最も高い結果となりました。

大牟田市民文化のつどいの参加団体などの発表の機会を自ら企画している文化芸術団体は、イベントの告知や発表に係る人的支援を求めていることが推察されます。

#### **4. これからの文化芸術活動に関するアイデアや意見など[自由記述欄]**

##### **(1)文化芸術団体は文化芸術活動を通じたさまざまな交流を望んでいる。**

文化芸術団体に対するアンケート調査の自由記述欄では、文化芸術活動を通じた交流を望む意見が多く寄せられました。具体的には、子どもや若者(高校生含む)との交流、他の文化芸術分野の団体との交流、サークル相互の交流、地区公民館の他のサークルとの交流、地域コミュニティ組織との交流など、世代・分野・拠点・組織を越えた交流を望んでいることが判明しました。

##### **(2)文化芸術団体はさまざまな機会を捉えての発表の場を望んでいる。**

文化芸術団体に対するアンケート調査の自由記述欄では、交流も含めたさまざまな機会を捉えた発表の場を望む意見が多く寄せられました。また、発表についても、これまでの発表の場の継続だけでなく、合同発表会や他の団体との交流発表会、これまでの発表会場とは異なる場所での発表など、趣向を凝らした発表を望んでいることが判明しました。

## 調査から見えてきた主な特徴を踏まえた今後の方向性

### ■市民意識調査

#### 1. さまざまな機会をとらえた文化芸術に触れる機会の創出

##### (1) 体験できる文化芸術

- ①子どもを中心とした文化芸術の体験の充実
- ②学校教育の中での文化芸術の体験の充実
- ③親子の触れ合いなどを通じた文化芸術の体験(保護者も文化芸術に触れる機会) など

##### (2) 魅力ある文化芸術

- ①市民が興味を持つ文化芸術に触れる機会の充実
- ②多様なニーズに応じた文化芸術に触れる機会の充実
- ③優れた(質の高い)文化芸術に触れる機会の創出 など

#### 2. 気軽に文化芸術に触れることができるための環境や条件の整備

##### (1) 身近な場所で文化芸術に触れることができる機会の創出

- ①地区公民館などの身近な公共施設などを活用した文化芸術の創出
- ②身近な民間施設などを活用した文化芸術の創出
- ③文化芸術活動を行う団体等が身近な場所で気軽に文化芸術が発表できるための整備や支援
- ④オンラインの活用などの間接鑑賞も含めた文化芸術に触れるための整備や支援 など

##### (2) 文化芸術に触れるためのさまざまな配慮

- ①社会的弱者なども気軽に文化芸術に触れることができるための配慮や支援
- ②移動困難な市民が文化芸術に触れることができるための機会の創出
- ③安心して文化芸術に触れることができるための配慮や支援 など

#### 3. 趣向を凝らした文化芸術情報の発信

##### (1) 触れてみたいと思う文化芸術情報の発信

実際に体験や鑑賞を行った市民の感想を情報発信するなど、触れてみたいと思うような文化芸術情報の発信の工夫が必要(例:事前情報+事後情報 による発信)。 など

## (2)ターゲットとしている年齢階層に応じた情報発信ツールの選択

文化芸術のターゲットとしている年齢階層に応じた情報発信ツール(広報誌・ホームページ・SNS・チラシ・ポスターなど)を選択した効果的な発信が必要。 など

## (3)文化芸術活動を行っている団体等の情報発信の支援

文化芸術に関する情報のほとんどは、文化芸術活動を行っている団体等の取組みであることから、団体等の情報発信を積極的に支援していくことが必要。 など

## ■若者意識アンケート調査

### 1.身近な場所で魅力ある文化芸術に触れる機会の創出

若者の関心がある分野を把握し身近な場所で文化芸術に触れることができる魅力ある催し物を企画することが重要です。

### 2.子どもの頃から文化芸術に親しむ機会の創出

学校教育などの機会を活用するなど、子どもの頃から文化芸術に親しむ機会を創出することが重要です。

## ■子どもの文化芸術に関するアンケート調査

### 1.子どもが文化芸術に触れる機会の創出

学校及び保護者は、子どもが文化芸術に触れることは重要と感じており、かつ文化芸術に触れる機会を与えたいと感じていること、一方、子どもが文化芸術に触れる機会が充実していないと感じていることから、以下の取組みのような、さまざまな機会をとらえた文化芸術に触れる機会や情報発信、支援を行うことが重要です。

- ①子どもがさまざまな機会や身近な場所で文化芸術を体験することができる機会を創出
- ②子どもが文化芸術に触れることができるための情報発信の充実や環境・条件の整備 など

### 2.学校が行う文化芸術活動への支援

学校及び保護者は、学校での音楽や演劇、美術などの文化芸術の鑑賞や体験の機会を強く望んでいるものの、学校においては、授業単位の時間や費用面の課題などから充分ではない状況が判明しました。

一方、学校は、費用面の支援や文化芸術団体やアーティストの紹介や調整の支援などを求めていることから、学校が行う文化芸術活動について、以下の取組みのような支援を行うことが重要です。

- ①学校が行う文化芸術活動を支援する取組みの拡充
- ②学校に文化芸術を提供するためのさまざまな企画や情報の提案や提供
- ③学校に文化芸術活動を提供できる人材の発掘や育成 など

## ■文化芸術活動アンケート調査

### 1.文化芸術活動を行う市民を増やす

#### (1)市民が文化芸術に触れる(参加する・鑑賞する・体験する)機会の創出

- ①身近な場所で文化芸術に触れることができる機会の創出
- ②子どもの頃から文化芸術に触れる機会の創出
- ③多様な市民が文化芸術に触れる機会の創出 など

#### (2)文化芸術の魅力発信の充実

- ①文化芸術に関する情報発信の充実
- ②文化芸術団体に関する情報の発信の充実 など

### 2.文化芸術団体の活動を支援する

#### (1)文化芸術団体の組織、活動の活性化に向けた支援を行う

- ①文化芸術団体の活動拠点の確保や場の創出、活動や情報発信の支援
- ②文化芸術団体の運営に対しての必要に応じた支援
- ③文化芸術団体が抱える課題の解決につながる研修の企画 など

#### (2)文化芸術活動を通じた交流の機会を増やす

- ①文化芸術を通じた世代間交流の機会を拡充
- ②同一分野の文化芸術分野の団体の相互交流
- ③他の分野の文化芸術分野の団体、地域コミュニティ組織との交流 など